

千葉県における2021年福德岡ノ場軽石の漂着状況について

香川 淳 八武崎寿史 荻津 達¹⁾ 潮崎翔一²⁾

(1: 現環境生活部水質保全課, 2: 防災危機管理部防災対策課)

1 はじめに

小笠原諸島の海底火山である福德岡ノ場は2021年8月13～15日に大規模噴火し、その噴煙の高さは16,000mに達し大量の軽石を海上に放出した¹⁾。この軽石は「パミスラフト（軽石いかだ）」と呼ばれる密集・浮遊した状態で、2021年10月には沖縄県に大量漂着し漁業関連被害を生じた。一方、千葉県では2021年11月に軽石の漂着が確認されており、沖縄県漂着軽石との成分比較や特徴から福德岡ノ場軽石と同定されている²⁾。この後も福德岡ノ場軽石の断続的な漂着は続いていることから、これまでの千葉県における軽石漂着状況について報告する。

2 福德岡ノ場軽石の特徴と調査内容

福德岡ノ場軽石のガラス組成は、アルカリ元素に富む粗面安山岩（トラカイト）と呼ばれる組成からなり²⁾、発泡した明灰～暗灰色のガラス基質に、特徴的なチョコチップ状の黒色発泡ガラスと鉱物の集合体、平板状斜長石（うずら石）、カンラン石等が含まれている。これらの特徴から、他火山起源の軽石とは肉眼で容易に区別が可能である。各地の海岸に漂着した流木や植物片、海洋ゴミ等の中から、福德岡ノ場軽石を選別し記録した。

3 福德岡ノ場軽石の漂着状況

房総半島各地の海岸における福德岡ノ場軽石の調査から、2021年11月以降の軽石採取地点と汀線・砂浜浸食・風紋との前後関係、付着生物の状況等から、おおよその漂着時期を推定した。

【2021年11月～2022年1月初旬の漂着状況】：福德岡ノ場軽石は館山市布良漁港で初確認（11/18）された後、太平洋側ではいすみ市～銚子市まで追跡することができた。東京湾側では鋸南町～富津市まで確認されたが、富津岬より湾奥部では確認できなかった（図1）。この時期の漂着軽石の長径は1～5cmのものが多く、表面の付着生物は少なく一部に小型のエボシガイ（蔓脚類）の付着がある他は、軽石表面は素地が露出した状態であった。

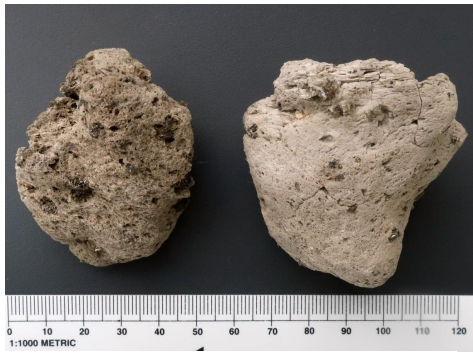
2021年8月に噴火した福德岡ノ場から、ごく短期間に噴出・漂流を開始した軽石の多くは黒潮（反流）に乗り西進し琉球列島に達した。しかし一部の軽石は、漂流の過程で黒潮の蛇行や台風・南風の影響を受け北上・東進し、比較的短期間で千葉県に漂着している（第1波）。今後、黒潮本流とともに西南日本経路で長期間漂流している軽石が、多数の付着生物を付加しつつ、本県に漂着する可能性がある（図2）。

4 おわりに

現在のところ、千葉県において福德岡ノ場軽石による漁業等への被害は確認されていないが、南西諸島にはまだ大量の軽石が残存していることから今後も断続的な漂着が続くと考えられ、注視していく必要がある。

引用文献

- 1) 気象庁：火山の状況に関する解説（福德岡ノ場 第2号）令和3年8月16日14時10分発表（2021）。
- 2) 千葉県環境研究センター：2021年11月に千葉県館山市に漂着した軽石について（2021）。
- 3) 海上保安庁：海洋速報 令和3年11月19日 第217号 11月18日の海況（2021）。



鋸南町大六海岸で採取された軽石
(2022年1月9日)

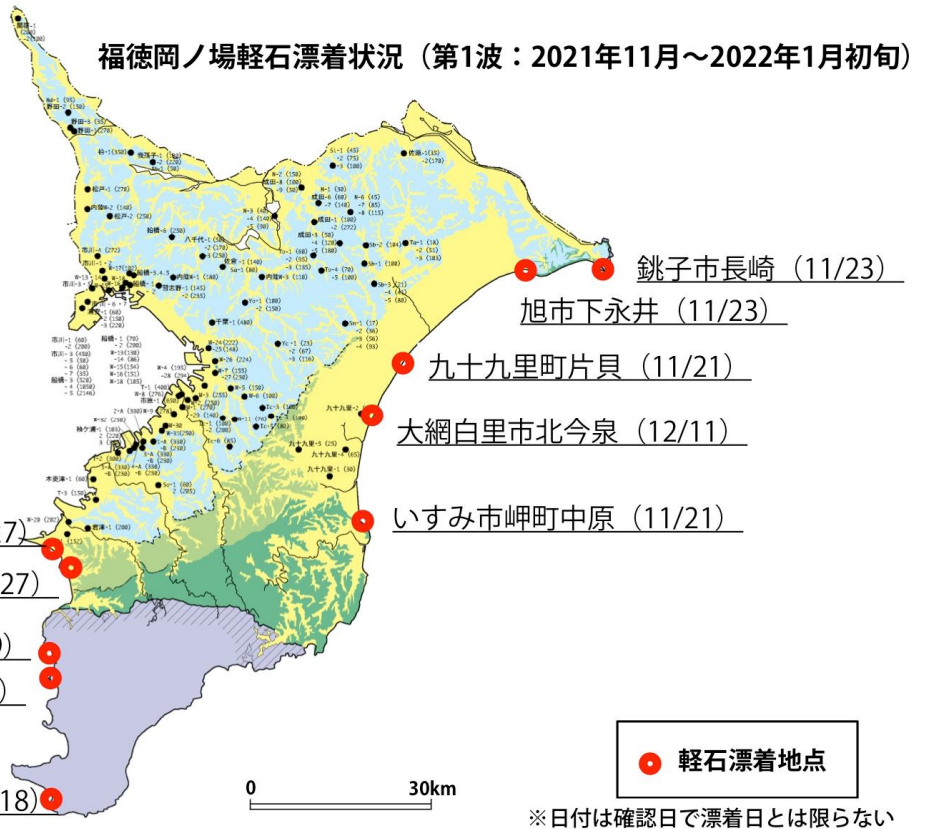


図1 福岡ノ場軽石漂着状況 (2021年11月～2022年1月初旬)

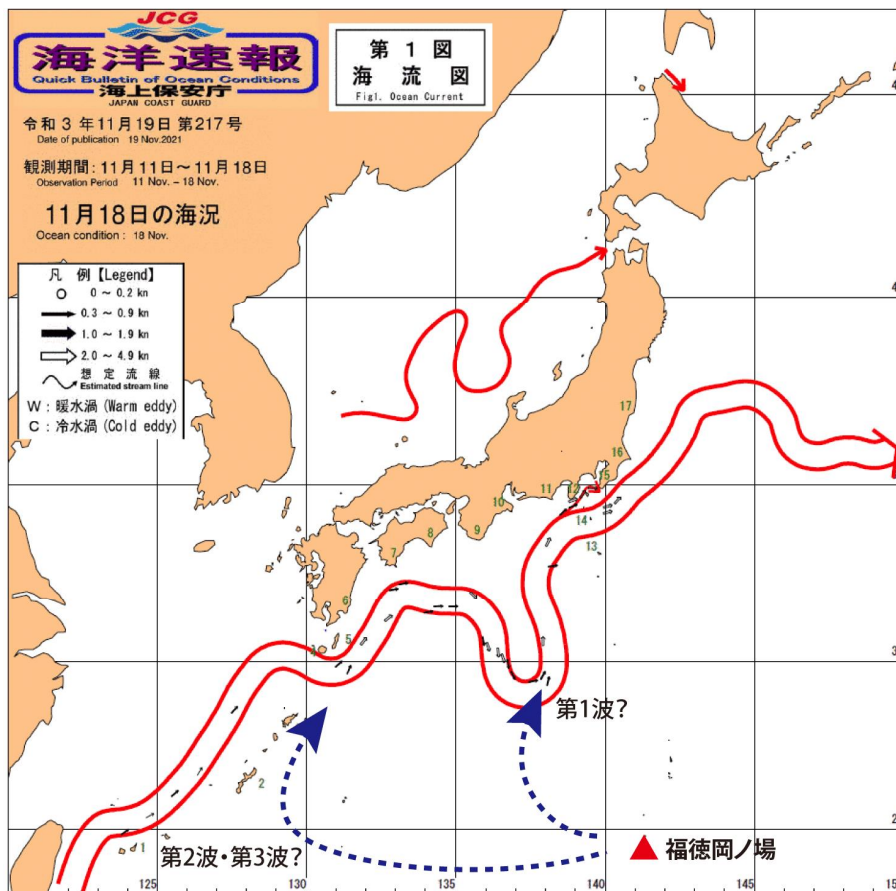


図2 福岡ノ場軽石の推定漂流経路 (海上保安庁海洋速報第217号³⁾ に加筆)